

「怪談噺」

死神

別名「誉れの幫間」。

明治中期にイタリアのオペラ「クリスピーノの死神」からヒントを得て作り出された噺で圓朝作とされている。その原話はグリム童話にあるという。

以前のサゲは「消えた」であったが六代目円生が「消えた」ではおかしいといい「消える」に直した。

柳家権太郎 昭和22年東京都生まれ、昭和45年柳家つばめ入門、昭和57年真打ちに昇進。

「粗忽噺」

堀の内

粗忽物の小話を集めたもの。上方では「愛宕参り」という。

原話は民話を全国的に収集したもの。隣の家へ帰ってくるくだりは、「軽口榎徳利」所蔵の「粗忽な年札」、風呂屋のくだりは「無事志有意」の「そわか」。

書風亭柳橋 昭和31年茨城県生まれ、昭和57年七代目春風亭柳橋入門、平成6年真打ち昇進。

「長屋噺」

天災

「百花園」の速記（二代目古今亭今輔）は、心学の先生が「紅葉坊なまる」となっている。

心学は江戸時代に流行した一種の修養道。とうに廃れてしまったものだが、日本人の伝統的な価値観や思考法を有するものであったと思われる。

春風亭一朝 昭和25年東京都生まれ、昭和43年春風亭柳朝入門、昭和57年真打ちに昇進。

以上